

カレッジ通信

編集・発行

東京建築カレッジ

授業見学
大歓迎!

TEL 03
(5950)
1771

木造軸組み2階建てを手刻みでつくる 建築の本質を体感できる「実習棟実習」

1年生の
授業から



建築の総合的な実践学習「実習棟実習」。写真は第29期生、「柱」班の増永寛子さん(内装工)(12月27日撮影)。



今の建築の現場は分業化・効率化が進み、新規入職者が建築の全体をゆくり学べる環境ではありません。特に新築戸建て住宅はプレカット材の組み立てが作業の中心で、部材の性質を見極めながら正確に墨付け、加工していく従来の大工仕事を体験することが不可能になっていきます。今後の住宅建築で主流になるとされる中古住宅の改修の担い手はどうなるのか、心配です。そこで、東京建築カレッジでは、図面の理解、部材の善し悪しの見極めから、墨付け、刻み、組み立てまで通して体験できる「実習棟実習」を1年次後半半に実施しています(江東実習場)。これは設計や施工管理など大工以外の職種の教育にも役立つものです。

図面の理解から

4月に入学した1年生はまず1学年上の先輩が建てた実習棟を解体する一方、「板図(手板)」一作図を通して図面集を読み解きます。その後、研修生の個性を分析しながら担当の先生が班分けをおこないます。今年度は15人と少人数のため、「土台・胴差」6人、「小屋」4人、「柱」5人となりました。材料は宿泊研修で見学した埼玉県飯能市の大河

視野を広げる教養科目も充実

東京建築カレッジは、職業能力開発促進法下、「高度職業訓練専門課程 居住システム系建築科」に基づく「施工系」「計画系」「構造系」「情報系」科目以外に「教養系」科目を充実させています。宿泊研修、林業体験、卒業制作、OJT(現場実習)などのほか、「建築社会論」では建築の最前線で活躍中の講師から特別授業を受けます。今年度は12月19日に、銭湯の設計で有名な今井健太郎さん(一級建築士)と、一級建築士ジャーナリスト、森山高至さんから建築の夢と今後の課題を学びました。

共同浴場の進化を建築の力で実現させてきた今井さんの仕事の話をも心地で聞き入る一方、日本社会と建築業界で起きていることを森山さんの解説で楽しみながら知りました。「高みをめざす大工は(昭和のクルマを修理し高付加価値化する)旧車ブームに学べ」という森山さんからの励ましには歓声が上がっていました。



業界の今後を解説。テレビの情報バラエティー番組でおなじみの森山高至さん

上棟は公開で

原木材から届きます。班ごとに真新しい角材を1本1本吟味しながら墨付けの準備をしていきます。今の住宅建築では経験できない学びです。木造軸組み2階建ての実習棟の構造は1階部分が伝統構法、2階部分が在来構法(補強金物、筋かい付き)のハイブリッド。最高部は6メートルを超え、安全教育を徹底し、1月24日(金)・25日(土)に上棟(建方)実施の予定です。

上棟(建方)は見学できます(事前申し込み制)。東京建築カレッジの教育の特徴、研修生の様子を見に来てください。

入学して体験しよう!



4月入学 第30期生を募集中です。就職先紹介もおこなっています。相談はお気軽に。

卒業制作*プレ発表会で各班の到達点を報告

2年生の授業から

協働と工程策定が課題

卒業(修了)への関門の1つが「卒業制作」。要綱の制約下、自由にテーマを決めて企画構想から作品の完成まで2年次の1年間で過ごさないまま。施主は学校長。設計施工業務の疑似体験です。12月28日(土)、プレ発表会が池袋校舎でおこなわれました。〔発表会3月8日(土)〕



組物模型 班



賽銭箱 班



屋台茶屋 班



手水舎 班

図面や作業の全体像の理解が不十分で、先生方から厳しい指摘を受けた班もありました。

近づく技能照査(実技)試験

修了試験の位置付けの「技能照査試験」。学科と実技があり、実技試験を1月18日(土)・19日(日)に実施します。東京都の担当者が立ち合い、厳正におこないます。試験課題の「化粧棒隅木」の製作練習に気合いが入ります。正確な原寸図の作図の配点も大きいので、模造紙を持ち帰り正月休みに自宅で練習する人も。



1:26:00からの山辺豊彦先生と東京建築カレッジの橋本英夫先生の対談だけでもぜひ視聴をお願いします。

耐震基準が強化される前に建てられた住まいにたいして、そこで暮らす人の思いを大切にしながら、自分に何ができるのか、考えること。国や自治体の施策をただ紹介するだけでなく、同じ地域に生きる間柄の信頼をベースに具体的な手当てをする役割が地域の建築従事者、建築職人にはあります。そのことを再確認させてくれる学習教材です。寄せられた感想の一部を紹介します。

「近所の高齢者を説得しトイレ増設で寝室の耐震性を向上させた話は参考になりました」(国分寺市、建築大工)

山辺豊彦さんと橋本先生の対談が好評



2024年11月16日(土)、東京・大久保の「けんせつプラザ東京」で開催した、東京建築カレッジ第25回公開講座の第1部を12月下旬からWEB公開しました。1月5日正午時点で「151回視聴」。対談コーナーが好評です。

規矩準縄勾

「建築の仕事がしたい」「大工になりたい」という相談を良く受けます。人不足は業界全体の大問題ですが、魅力を感じる人は少なくありません▼ただ、新卒に限定すると大工な職人系の採用募集は大苦戦。若者人材の争奪戦下、待遇で見劣りがする中小工務店は求人を出しても応募者ゼロが珍しくありません▼新人の採用と育成で中小工務店の成長と共同が欠かせません。建築カレッジでの2年間の研修付与を訴求すると共に、お互いを刺激しあい、希望を持ち安心して働ける職場をつくらなければ!▼意欲次第では転職者への挑戦の機会提供も大切。昨年末は意欲溢れる40代女性の求職を支援し、年齢・性別での常識の転換が必要だと感じています。